

## 2018年第6回 社会資源の改善開発を実践し入所を選ばないプロジェクト

### 「趣旨説明」 1分

・今日はお忙しいなか、お集まりくださりありがとうございます。このプロジェクトの主宰をしております、自立生活センターアークスペクトラムという当事者団体代表の岡田です。

・社会資源の改善開発を実践し入所を選ばない地域生活をつくるプロジェクトと、いささか長い名前のプロジェクトをはじめて1年ちょっとになりますが、障害福祉サービスや高齢福祉サービスなど、地域生活をするために必要な社会資源の総点検をしてきて、今回は6回目の定期勉強会になります。

・教育はこのプロジェクトの重要な位置を占めています。そもそもは、障害者や高齢者が、生まれ育った土地や、すみ慣れた家で生活し続けるためには、その人に合った介助サービスの保障がされている必要があるけれど、介助サービスを支える人が、小さいときから障害を持つ人と接する機会がない、ということは、大人になってからの勉強では出遅れたハンデがあって、そのハンデを克服するのに時間がかかりすぎるなー、と問題意識を持っていました。その人の障害や介助技術を勉強するのも大事なんですけど、いかに早い段階でおたがいの違いを感じて、子ども特有の支え合いができたかが、ともに生きていくときには一番大切になるんじゃないかと思っています。

・障害者権利条約にも明文化され、インクルーシブ教育という言葉は使われるようになってきましたが、実際は分離されたままってことが多いのが現状だと思います。全国でインクルーシブ教育を実現しようとする取り組みがあり「なにが課題」で、「なにが問題」なのか、「どのように改善開発」していくのかを、今日はお招きした海老原さんと、永井さんお二人にお伺いしながら、連帯して教育の改善開発を実践していきたいと考えています。今日はよろしくお願ひします。